

山田町長 三重県知事から

■山田町長からのメッセージ

めっきり冬らしくなり、つい先日までの山田町の短い夏が遠い事のように感じられる今日この頃です。という言葉からもお気付きのことでしょうが、人の記憶とは不確かなものです。2年半前の大災害も多くの方には遠い昔のこととして片付けられているように思えます。オリンピックなどの話題で被災地が忘れ去られることが、現場をあずかる者として懸念されます。実は3年目が多くの問題が顕在化する時期なのです。私はこの一年が被災地にとって一番重要な年だと感じていきます。

震災後、多くのボランティアが押し寄せ、津波が引くようにいなくなりました。そのような中、みえ災害ボランティア支援センターの皆様方には、継続してご協力を頂きました。この記録誌を見ればセンターの活動内容は一目瞭然であり、すばらしい活躍が多くの方にも伝わると思っています。みえ災害ボランティア支援センターは平成25年12月で活動終了というところで、発災からこれまでの支援活動に対し、町民を代表して心から御礼を申し上げます。

今回、生まれた縁を大切に、今後もさまざまなかたちで交流ができればと思います。

復旧、復興は町内いたるところで始まっております。国民の皆様の大切な税金を使つての工事です。すこしたりとも無駄な事業をしないよう、次世代に重荷にならないコンパクトな町づくりが目標です。

そして二度と津波で命を落とさない町づくりをめざし、町民一同頑張つてまいりますので、皆様には今後とも山田町のことをよろしくお願い申し上げます。



山田町長 佐藤 信逸
平成 25年 12月 吉日

■三重県知事からのメッセージ

東日本大震災による未曾有の大災害から3年近くが経とうとしていますが、改めて、被災された方々へお見舞い申し上げます。

みえ災害ボランティア支援センターは、発災から3日後に立ち上げて以来、幹事団体やボランティアなど多くの皆さんに支えられ、活動を行ってまいりました。

岩手県山田町へボランティアをバスで派遣する「みえ発！ボラパック」は、震災から1か月後の平成23年4月に第1便を運行するとともに、その後、支援の内容を変えながら2年半にわたり継続し、計72便、延べ1,290名の方に参加していただきました。

全国でも数少ない、長期的な支援活動ができたのは、センターとボランティアの皆さんが一体となつて取り組んだ大きな成果であると考えています。

また、東日本大震災により三重県へ避難された方々に対しては、笑顔と元気を取りもどしていただけるよう、県民や避難者の皆さん同士で交流していただく、「みえで仲間をつくり隊」などを開催してきました。

こうした活動は、ご参加いただいた皆さん、お力添えをいただいた皆さん一人ひとりの思いの結集であり、厚くお礼を申し上げます。現地はまだまだ復興半ばです。築かれた絆を大切にしながら、県として引き続き支援を行っていくとともに、これら支援活動から得た経験や教訓を三重県においても生かしていきたいと思っております。

今後とも皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



三重県知事 鈴木英敬
平成 25年 12月 吉日

山田町の方から

私が最初に発した言葉は、「何で？10数時間もかけてみちのくの又みちのおくの山田まで？」。帰ってきたご返答は「被災地の一番遠いところを支援することに決めたのです。」との力強い言葉でした。

発災から2年8ヶ月が経ちますが、みえの皆様は、10数時間かけておいで頂き、本年9月までボラバス71便約130名、地元の人間にとりましては、何よりも皆様の愛と笑顔が生きる勇氣と力の源となりました。日々、気持ち落ち込み心が折れそうなきなど、みえのボランティアバスとオレンジ色のビブスのボランティアの皆様からの声掛けが心の支えとなりました。「ありがとうの心を込めて感謝、感謝」であります。

このように、感謝できること、お話できることが生き長らえている証と捉えて頂ければ幸いです。経験のないこととは言いながら、これまでの活動において皆様方には大変失礼な言動や行動が多々あったものと思っております。この場をお借りし心からお詫びを申し上げます。

これから、プレハブの仮設住宅でも半年間寒さと雪との戦いははじまります。いつもそうですが、春の来るのが待ち遠しい今日この頃です。どうか、三重県の皆様そしてみえ災害ボランティア支援センタースタッフの方々におかれましては、ご健康に留意なされ、ますますの活躍を願いつつお礼とさせていただきます。



山田町社協
復興支え愛センター長
社会福祉法人
山田町社会福祉協議会
事務局長 福士 豊

平成 25年 11月 吉日

三重の皆様、長い間ご支援いただきありがとうございました。

23年4月の先遣隊7名を皮切りに、4月28日の「ボラパック」20名の第1便の皆様を始め現在まで千名を超える多くの方々、そして9才から81才まで幅広い年令と何回もくりかえし山田を訪れる方もおりました。又、ボランティアの内容も文化的な事や、スポーツそしてガレキ撤去等と山田町民のニーズに対応したタイムリーな素晴らしい内容でした。まさに「みえボラ」は一般市民を中心として、三重県知事様を始め各種団体の大同団結のもと、「みえ宣言」を実践した三重県あげてのボランティア活動と思えます。

私個人も伊勢ロータリークラブを中心とし、伊勢市の方々と交流させていただき、ずいぶん元気づけられました。公私共に一生忘れる事のない温かくすばらしいご支援です。残念ながら山田町の復興はまだまだです。できますれば、今後共息の長いご支援をいただければと誠に勝手ながら願うものです。

あらためて心からの感謝と御礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



山田町商工会
会長 阿部 幸栄

平成 25年 11月 吉日

あの悪夢のような震災から2年8ヶ月、町は今、二度と津波で犠牲者を出さない安全な町づくりに、全力で取り組んでいます。

みえ災害ボランティア支援センター様には、震災年4月から今日まで山田町を応援していただいております。その間、被災者のニーズが変わる中での対応、大変ご苦労されたことと思います。先般、みえ災害ボランティア支援センターさんにお邪魔した際、ホテル入口で、ここから「ボラパック」が発したことを聞かされ、片道15時間もかかる山田町までの移動を、1290名のボランティアの方々はどうのような思いでバスに乗り込んだのだろうか、それを思えば心から感謝の気持ち一杯でした。又、送り出すまでの事務局の方々のご苦労を考えますと、ただ、甘えるだけでいた自分たち、頭の下がる思いです。

今回のみえ災害ボランティア支援センターさんとの関わりについては、私たちが忘れかけていた「相互扶助」の精神も含めて、震災の教訓として後世に語り伝えていく責務があると強く思っております。私たちは、今後応援していただいた皆様の想いを胸に、皆様にはしないような素晴らしい町づくりに邁進していく覚悟でございます。どうぞ、いつまでも山田町を見守って下さるようお願いいたします。本当に有難うございました。



山田町観光協会
事務局長 湊 敏

平成 25年 12月 吉日